

著作権法

(Copyright Law)

1 学期 土曜 6・7 時限
授業時間：75 分×20 回
単位数：2 単位
履修年次：3 年次

担当教員：山口三恵子
研究室：

授業概要：

本講義では、著作権法について、体系的な知識と理解を深める。裁判例や実務についての分析検討を行うことによって、著作権法の実務上必要とされる最低限度の解釈、理論を習得する。法律実務を行うには欠かせない、法理論の事例への当てはめを行うための適用能力を養う。事前に指定または配布した検討対象とする裁判例、文献については、十分読み込んだ上で、講義に出席すること。

六法は毎回持参すること。

レポーターに指名された者は、責任をもって検討し、レジュメ等を用意して報告し、議論のリーダーシップをとれるように準備すること。当然のことであるが六法（発明協会刊「知的財産権法文集」を推奨）は毎回持参すること。

評価方法：

レポート60%、授業への参加姿勢40%

また単位認定に際しては、最低1回はレポーターとして発表することを課する。レポート（報告）と討論（参加態度）を考慮して評価を行う。

なお本講義の履修者は、「知的財産法」の単位習得者が望ましい。

テキスト：

実務知的財産権法講義（実務法律講義13）全訂増補版（平成22年4月22日発行）
末吉互編著 発行 民事法研究会

参考書：

金井・小倉編著「著作権法コンメンタール上下」（東京布井出版）
小泉・高林・井上・佐藤・駒田・島並編著「ケースブック知的財産法」（弘文堂）
金井重彦「デジタル化・ネットワーク化時代の著作権の基礎知識」（ぎょうせい）
田村善之「著作権法概説 第2版」（有斐閣）
半田正夫「著作権法概説14版」（法学書院）
斉藤・半田編「著作権判例百選」（第三版）（有斐閣）
中山・大淵・小泉・田村編「著作権判例百選」（第四版）（有斐閣）
大淵, 茶園, 平嶋, 蘆立, 横山/著「知的財産法判例集」（有斐閣）
本橋光一郎・美智子共編著「著作権判例212」（学陽書房）

加戸守彦「著作権法逐条講義」(五訂新版)(著作権情報センター)
中山信弘「著作権法」(有斐閣)
斉藤博「著作権法第3版」(有斐閣)

授業計画：

- 第1週 著作権法の全体構造
- 第2週 著作物(1) (著作物とは何かー一般論) (著作物性ー特に創造性、実用著作物)
- 第3週 著作物(2) 編集著作物、二次的著作物
- 第4週 著作物(3) (著作物の類型・伝統型とコンピュータプログラム/アナログ型とデジタル型)
- 第5週 権利主体(1) (著作者概念の整理と共働創作の場合の著作権者の認定)
- 第6週 権利主体(2) (職務著作)
- 第7週 権利主体(3) (映画の著作物)
- 第8週 著作権(1) (著作権の内容) (各支分権について)
- 第9週 著作権(2) (著作権の内容) (各支分権について)
- 第10週 著作権の制限
- 第11週 著作者人格権(1) (概論)
- 第12週 著作者人格権(2) (各論)
- 第13週 著作隣接権
- 第14週 共働創作の場合の権利関係
- 第15週 著作権の保護期間、登録、契約 (譲渡、ライセンス、出版権設定、)
- 第16週 著作権侵害に関する法理論 (侵害判断のための要件論) 及び救済手段
- 第17週 間接侵害論 (侵害主体についての裁判例の展開と今後の予測)
- 第18週 具体的なケース (仮想のケース) の分析
- 第19週 具体的なケース (仮想のケース) の分析
- 第20週 具体的なケース (仮想のケース) の分析